

2013年8月12日

中国経済学会と中国経営管理学会の統合に向けてのこれまでの経緯

中国経済学会

中国経済学会（2002年設立）と中国経営管理学会（2000年設立）は対象とする研究領域を共有する部分も大きく、また、両学会に重複して所属する会員の数も多いことから、かねてより、統合して一つの学会とする可能性が議論されてきた。2010年6月の総会において、本学会の新会長に選出された中兼和津次会長は、中国経済学会と中国経営管理学会の統合に向けた準備を積極的に推進することを表明した。同時に、中国経営管理学会の丸川知雄会長が中国経済学会の副会長に就任し、両学会の統合に向けた準備が本格的に開始された。以下に、両学会の統合に向けた準備のこれまでの経緯をまとめる。

2010年6月19日（土） 理事会・総会（名古屋大学）

中兼新会長より、中国経営管理学会との統合を進めたい旨の挨拶があった。

2011年6月18日（土） 理事会・総会（日本大学）

統合問題を検討するための委員会を会長のもとに設置することが承認され、本学会からは加藤弘之副会長が中心となって、経営管理学会との折衝を進めることとなった。

2011年12月10日 臨時理事会（拓殖大学）

中国経営管理学会との協議によりまとめられた「中国経営管理学会との統合について」が審議・了承され、2012年6月に開催される総会に提案されることとなった。本提案は、「統合のための基本ポリシー」「統合のために基本事項」「統合に向けたタイムテーブル」からなっている。総会において提案が承認された場合には、2013年6月に開催予定の総会において両学会の統合を決定することとなった。

2012年6月23日（土）理事会・総会（立正大学）

中国経済学会会長中兼和津次、中国経営管理学会会長丸川知雄により記された「中国経営管理学会と中国経済学会の統合に関する合意（案）」が理事会・総会に提案され、審議・了承された。なお、本案は上記「中国経営管理学会との統合について」と同じ内容のものである。これにより、2013年6月の総会において両学会の統合が正式に決められることとなった。なお、新学会の会則等を定めるため、中国経営管理学会と折衝する委員として、中兼会長より荒山裕行理事が指名された。

2013年6月22日（土）理事会・総会（京都大学）

本学会の荒山理事と中国経営管理学会の李春利理事によりまとめられた「中国経済経営学会会則（案）」が審議・承認された。さらに、同日に開催された両学会の合同総会において、同案が審議・承認された。これにより、両学会の統合が正式に決定し、2014年度は統合された学会（中国経済経営学会）による最初の全国大会が開催されることとなった。なお、新学会の「理事選挙規定」等の制定については、引き続き、本学会の荒山理事、また、本学会会長が指名する選挙管理委員と中国経営学会側の担当者との協議・作成し、その後、理事会の承認を得ることとなった。新学会の理事選挙は2013年末までには実施する予定としている。